

高次脳機能障害のある三木市志染町井上の畠山哲人さん(43)と小野市脇本町の井上京香さん(19)が4日、三木北高校(三木市志染町青山6)で講演した。約400人の生徒らを前に、苦労しながら前向きに生きる姿を紹介。目に見えにくい障害への理解を求めた。

(大島光貴)

# 「覚えられない」私たちの苦労

畠山さん、井上さん

## 高次脳機能障害の理解訴え

畠山さんは同校の卒業生。2010年、自宅で気を失い、2ヶ月後に目が覚めたが、体が動かなくなつた。一時は自殺も試みたというが、幼いわが子を思い、リハビリに励んだ。左半身まひのため就職できず、昨夏、障害者に就労機会を提供する作業所を自ら開設。講演では「障害者がやつてもらうのではなく、一緒に参加する社会をつくりたい」と話した。

井上さんは小野工業高3年だった14年、登校中に交通事故に遭つて一時は意識不明になつたが、リハビリで歩けるようになり、昨春自宅に戻った。音楽会を企画するグループ「どうゆうノウ」を家族と設立し、障害を知つてもう活動に取り組む。講演では「普通の人やんつて感じられるかもしないけど、いっぱい覚えられない、カレンダーニが分からぬ」など明かした。

最後に、世界自閉症啓発デー(4月2日)に向けて三木市のNPO法人「ラリグラス」が取り組み、横断幕とともに記念撮影した。



④高次脳機能障害について講演する畠山哲人さん(左)と井上京香さん

⑤世界自閉症啓発デーに向け、三木市発の横断幕リレーに参加した生徒ら=いずれも三木北高

